

科目名	情報通信工学実験Ⅱ	英文表記	Experiments of Information and Communication Engineering		2012/3/12	
科目コード	3203					
教員名:山田親稔、金城伊智子、長名保範(非) 技術職員名:佐竹卓彦、比嘉修、蔵屋英介					作成	
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
情報通信システム工学科	3年	必	履修	2単位	実験	通年
科目目標	指導書に従って、実験を行うことができ、使用する機器類を効率良く操作することができる。実験結果に対する考察を与えることができ、フォーマットに従ったレポートが書ける。					
総合評価	指導書に従って、実験を行うことができ、使用する機器類を効率良く操作できることをプレレポート(20%)により評価する。実験結果に対する考察を与えることができ、フォーマットに従ったレポートが書けることを、提出されたレポート(80%)により評価する。					
達成度目標と評価方法	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		
	①	指導書に従って、実験を行うことができ、使用する機器類を効率良く操作することができる。	⇒	実験前に作成したプレレポートにより評価する。		
	②	実験結果に対する考察を与えることができ、フォーマットに従ったレポートが書ける。	⇒	実験後に作成したレポートにより評価する。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4		
	◎		○			
授業概要、方針、履修上の注意	情報通信に関する基礎的な電子デバイスの特性、電気回路、パルス回路、通信回路に関する基礎的な実験を行う。グループ単位で実験を行い、ローテーション実験を行いながら全ての実験を行う。毎回、実験を始める前にその実験に関するプレレポートを提出し、実験終了後レポートを提出すること。関数電卓、グラフ用紙、定規などは毎回持参すること。					
教科書・教材	「絵ときでわかる電気電子計測」(オーム社:1年次で購入済)、「LATEX2ε美文書作成入門」(技術評論社)、「レポートの組み立て方」(筑摩書房)					
授 業 計 画						
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			自学自習 (予習・復習)内容
1	授業ガイダンス	2	シラバスを用いて、授業の進め方を説明する。実験の			
2	電子デバイス実験(ローテーション実験)	2	ダイオードの静特性に関する実験を行う。			プレレポート作成
3		2	前週の実験の続きを行う。			
4	電気回路実験(ローテーション実験)	2	AD/DA回路に関する実験を行う。			プレレポート作成
5		2	前週の実験の続きを行う。			
6	電気回路実験(ローテーション実験)	2	過渡応答に関する実験を行う。			プレレポート作成
7		2	前週の実験の続きを行う。			
8	実験まとめ	2	これまでの実験をまとめる。			
9	電子回路実験(ローテーション実験)	2	オペアンプに関する実験を行う。			プレレポート作成
10		2	前週の実験の続きを行う。			

11	電気回路実験(ローテーション実験)	2	RCフィルタ回路に関する実験を行う。	プレレポート作成
12		2	前週の実験の続きを行う。	
13	通信回路実験(ローテーション)	2	シーケンス制御の基礎に関する実験を行う。	プレレポート作成
14		2	前週の実験の続きを行う。	
15	実験のまとめ	2	これまでの実験をまとめる。	
期末	前期末試験	[0]		
16	パルス回路・電子回路実験(ローテーション)	2	波形整形回路・光センサに関する実験を行う。	プレレポート作成
17		2	前週の実験の続きを行う。	
18	プログラミング実験(ローテーション)	2	プログラミングに関する実験を行う。	プレレポート作成
19		2	前週の実験の続きを行う。	
20	電子デバイス実験(ローテーション実験)	2	マルチバイブレータに関する実験を行う。	プレレポート作成
21		2	前週の実験の続きを行う。	
22	レポート指導	2	レポート作成の指導を行う。	
23	実験まとめ	2	これまでの実験をまとめる。	
24	電子デバイス実験(ローテーション実験)	2	ELVISによる電子回路解析に関する実験を行う。	プレレポート作成
25		2	前週の実験の続きを行う。	
26	シミュレーション実験(ローテーション)	2	Matlab/Simulinkによる演習を行う。	プレレポート作成
27		2	前週の実験の続きを行う。	
28	通信回路実験(ローテーション)	2	シーケンス制御の応用に関する実験を行う。	プレレポート作成
29		2	前週の実験の続きを行う。	
30	実験まとめ	2	これまでの実験をまとめる。	
期末	期末試験	[2]		
学習時間合計		60	実時間	45
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
①				
②				
③				
備考欄				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)